



2018 年 (平成 30 年)
10月号 (No. 881)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1部 150 円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

瀬戸内海～日本海～太平洋を結ぶ 「関西支部県境縦走」約1000kmを達成

2013 (平成25) 年1月からスタートした「関西支部県境縦走」が18 (平成30) 年5月20日に、2度目の和歌山県新宮市に到達して終了した。5年5ヶ月に及ぶ約1000kmの大縦走であった。山行回数58回、行動日数118日、延べ参加者1003名の一大大プロジェクトについて重廣副会長に報告していただく。

関西支部 重廣恒夫

関西支部ではこれまでに、日本山岳会創立100周年記念事業の「中央分水嶺踏査」で、京都府境から岡山県境までの275kmを踏査した。引き続き2006 (平成18) 年5月から2年半かけて、吉野川の両側の四国分水嶺 (最東端・平石山・最西端・佐田岬、西赤石山・鳴門市) 約500kmの踏査を行なった。さらに09 (平成21) 年からは、紀淡海峡に浮かぶ友ヶ島から

紀ノ川の北側を東進し、鈴鹿山脈を北上して滋賀・福井・岐阜3県境の三国岳に至る「近畿分水嶺踏査」、さらに紀ノ川の南側を東進して高見山に至る「続・近畿分水嶺踏査」を行ない、12 (平成24) 年12月23日、霧氷輝く高見山に到達して約600kmに及ぶ山稜縦走を終えた。

関西支部は日本山岳会最初の支部として1935 (昭和10) 年に設

目次

瀬戸内海～日本海～太平洋を結ぶ 「関西支部県境縦走」約1000kmを達成	1
本会への高額の寄付者に対する国の表彰について	4
チョゴリザ初登頂60周年を迎えて	5
登山規制が緩和されつつある御嶽山	6
支部創設以来、日光と那須で清掃登山を実施中	8
さんけん通信	9
追悼 小須田喜夫さん	10
東西南北	11
新入会員	13
寄付金及び助成金などの受入報告	14
図書交換会目録	15
図書紹介	16
会務報告	17
ルーム日誌	17
会員異動	18
INFORMATION	18
編集後記	19

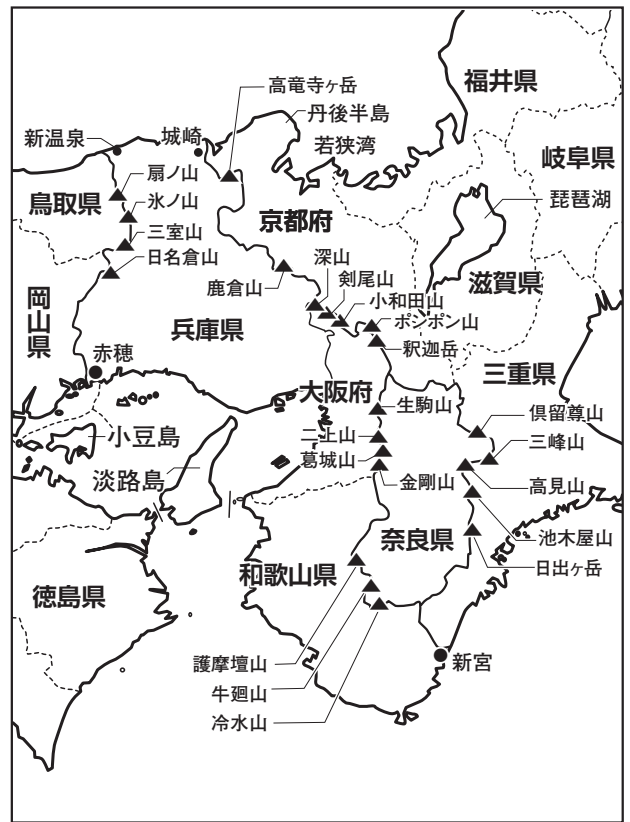
▶ 日本山岳会事務 (含図書室) 取扱時間
月・火・木……………10～20時
水・金……………13～20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10～18時



2014年1月19日、蒲生峠から雪深い稜線を日本海に向かう

赤穂市の福浦港に近い塩釜神社で達成祈願をした後、海岸の岩場を通過して真尾鼻に移動し、海拔ゼロmから歩き始めた。当日は神戸新聞の取材もあり、鹿久居島を背に県境を登る写真が紙面を飾った。その後も月1回、土・日を利用し

た縦走を続けた。兵庫・岡山・鳥取県境は深い竹ヤブに悩まされたが、兵庫・京都・大阪県境は比較的歩きやすかった。奈良・和歌山県境は登山道も多く、1日でも参加できる行程もあり、比較的参加者も多かったが、奈良・三重県境は京阪神から遠く、移動に時間(往復10時間)が掛かると、高見山から大台ヶ原山を経て新宮に至る縦走は道も荒れ、重荷を担いでの岩稜の登り下り、懸垂下降など体力・技術的にも難しくなり、参加者は少なくなった。



縦走の最後は新宮市の飛び地の
ある、北山川に引かれた複雑な県
境の通過は、考えあぐねた挙句北
山川を筏で下り、その昔、筏師た
ちが行き交った「筏師の道」を歩き
最後はジェット船に乗って終点か
ら路線バスで新宮に向かった。

足掛け6年に及ぶ58回、118
日の踏査には延べ1003名が参
加したが、年を追うごとに参加者
の高齢化(自分も含めて)をひしひ
しと感じざるを得ない山行となっ
た。今回の県縦走は安全登山の
啓発も兼ねており、体力や技術の

向上と同時に、パーティシップやリーダーシップのあり方を認識してもらう山行とした。幸いにして全行程中、一度の事故も発生しなかったことをその証左としたい。

安全登山のための施策

◆行動計画の作成

縦走途中のポピュラーな山では登山地図やガイドブックでコースタイムをたやすく計算できるが、登山者を迎えることの稀な県境縦走では、ウエブサイトなどでも情報が少ない。

今回、所要時間算出には、カシミールの「登山道作成ツール」を使った。予定ルートのグラフ表示から断面図を出し、沿面距離と推定所要時間を「設定」で調節して行程表を作成した。さらに、地図上でコースの状況を推測したり、ゲルアースの情報を参考にしたりして調整した。全行程踏査に使用した国土地理院の2万5000分の1地形図は、瀬戸内から日本海まで15図郭、日本海から太平洋まで45図郭、さらに奈良・三重県境18図郭の総計78図郭であった。

なお、県境縦走で通過した主な山（山と溪谷社の『新・分県登山ガ

イド』掲載分)は以下のとおりである。

日名倉山 〓 後山 〓 船木山 〓 駒の
 尾山 〓 三室山 〓 氷ノ山 〓 扇ノ山 〓
 高竜寺ヶ岳 〓 鹿倉山 〓 深山 〓 横尾
 山 〓 剣尾山 〓 小和田山 〓 鴻応山 〓
 ポンポン山 〓 釈迦岳 〓 生駒山 〓 高
 安山 〓 二上山 〓 岩橋山 〓 大和葛城
 山 〓 金剛山 〓 中葛城山 〓 高谷山 〓
 神福山 〓 護摩壇山 〓 牛廻山 〓 冷水
 山 〓 石地力山 〓 俱留尊山 〓 学能堂
 山 〓 三峰山 〓 高見山 〓 伊勢辻山 〓
 池木屋山 〓 日出ヶ岳 〓 茶白山

◆交通手段の確保

アブローチの効率化を考えれば、車の使用が不可欠であったが、車の手配の難しさ（県境復帰点と県境離脱点の双方に必要）と、万が一の交通事故などのリスクを考えて、公共交通機関とタクシーを利用した。

それでも縦走開始時には坂下会
員による車のサポートを受けた。
また、11回目の氷ノ山までは地元
の山に詳しい須磨岡会員（六粟50
山・播磨の峠ものがたり）とその
仲間（兵庫県縦走経験者の方々
に宿の手配から車の送迎など随分
とお世話になった。創立100周年
の「中央分水嶺踏査」で歩いた太



2014年2月23日、浦富海岸・汐吹岬の突端から日本海に到達

通峠から三室山を経て氷ノ山までは、相変わらずの厳しいヤブこぎに難渋した。扇ノ山からは季節が冬に向かうのでタクシーの利用が困難になったが、山陰支部の森田会員に4駆を出してもらい、大助かりであった。森田会員とは一緒に日本海に到達した。

◆荷物の軽減化

テント泊が多かったため、収容と重量比を考えるとなるべく大きなテントを使用した方が有利ではあるが、参加者の増減や直前の不参加の発生対応などを考えて、2人でテント1張とした。必ずしも広いテントサイトが確保できないヤブの中では有効であった。そし

て、コンロやガスボンベ、食器、食料は各自用意とし、その他の装備も含めて共同装備はテント、ロープ、GPS、鉈、鋸、救急薬品のみとした。また、担荷の負担となる炊事用と2日目の飲料水については、すべてテントサイトに近い場所です取水した。取水点については、一般道に比べて水場などの情報は一切得られないので、行動計画立案時に地図上で場所を設定した。

◆タイトロープ

縦走中には、事前に地図上では予測できなかった岩場や細く急峻な尾根に遭遇することが多くあった。安全登山のために参加者全員がスワミベルトやハーネスおよびシュリンゲ・セットを携行した。また、危険箇所が予測される行程では、ヘルメットも準備した。ロープ(8mm×20m)は、2人に1本の割合で携行した。さらに、コースの具合(懸垂下降が予測される場所)によっては30mを用意した。危険箇所では躊躇なくタイトロープ移動した。ロープを使った安全確保では通常スタカット・ビレイが行なわれるが、立木やヤブの多い縦走では、コンティニュアス

歩行で全員が移動する方がタイムロスも少なく、特につまずきやスリップが懸念される登山では、リーダーの精神的苦痛を軽減できる効果は大である。実際にロープを結んでいなければ事故になりかねないスリップも二、三度あったので、滑落事故の危険を回避できることを実感した。しかし、運用方法を間違えるとロープを結んだ全員が危険にさらされる場合もあるので、日ごろから実際にロープを結んだ歩行を積み重ねておく必要がある。

多くの3県境を通過

3つの都道府県境が1点に集まる箇所を3県境または三国境と呼んでいる。通常は山の頂や河川の真ん中になっっていることが多く、日本全国に48ヶ所ある。通常、同じ3県が県境を接する点は1ヶ所のみであるが、和歌山県の北山村全域や新宮市の一部が三重県と奈良県に挟まれた飛び地となっっていることもあり、この3県については3県境が5ヶ所存在するという、全国唯一の地域と

なっている。ちなみに「関西支部県境縦走」で通過した3県境は、以下のとおりである。

〈瀬戸内海・日本海〉

① 兵庫県六甲市・鳥取県八頭郡若桜町・岡山県英田郡西粟倉村 江浪峠北西側

〈日本海・太平洋〉

② 京都府丹南市・大阪府豊能郡能勢町・兵庫県篠山市 深山山頂北西側(船谷山)

③ 京都府京田辺市・大阪府枚方市・奈良県生駒市

④ 大阪府河内長野市・奈良県五



2018年5月19日、南紀・北山川のオトノリから小松の間を筏で下る



2015年11月28日、生駒山北方の三等三角点「笹の谷」を通過

條市・和歌山県橋本市 行者杉

(神福山山頂南西側)

⑤ 三重県熊野市・奈良県吉野郡

十津川村・和歌山県新宮市 葛

山南

⑥ 三重県熊野市・奈良県吉野郡

下北山村・和歌山県東牟婁郡北

山村 北山川(七色野水池)

⑦ 三重県熊野市・奈良県吉野郡

十津川村・和歌山県東牟婁郡北

山村 北山川(北山峡)

⑧ 三重県熊野市・奈良県吉野郡

十津川村・和歌山県新宮市 北

山川(湍峡)

⑨ 三重県熊野市・奈良県吉野郡

十津川村・和歌山県新宮市 北

山川

NOTICE

本会への高額寄付者に対する 国の栄典授与について

公益法人運営委員会委員長 佐野忠則

日本山岳会へご寄付をされた場合の税制上の数々の優遇制度については、会報「山」の本年6月号で吉川財務委員長から詳しく報告されています。日本山岳会がこれまで成し遂げてきた数々の海外遠征も多く、今後の事業継続にもきたわけで、今後の事業継続にも寄付は大切な意味を持っています。現在、日本山岳会に適用されている税制優遇制度は、民間団体としてはトップレベルの内容となっています。

それらの税制優遇とは別に、国の栄典制度に係る新たな資格について国の認定を得ました。

社会や公共の福祉、文化などに貢献した者を顕彰する国の制度として褒章制度があります。褒章は、社会貢献の種類によって色別に定められており、紅綬、緑綬、藍綬、紺綬、黄綬、紫綬の6種類があります。そのうちの紺綬褒章の授与について、該当される方を国に推薦する団体として本会が認定され

るように文部科学省を通じて内閣府に申請していましたが、多くの書類と厳しい審査を経て、このたび正式に認定されました。この資格は、国立大学等の国の組織以外に民間では日本赤十字社やごく一部の公益法人のみが認定されているものです。

紺綬褒章(正式英文名 Medal with Dark Blue Ribbon)は大正7(1918)年に制定された由緒ある制度で、対象は特定の公益団体に一定以上の寄付を行なった個人および団体に授与される褒章で、その基準は褒章条例で決められています。

現在の基準は特定の公益団体(本会)に個人で500万円、法人は1000万円以上の寄付(現金または物品)を行なった者となっており、分納も認められます。具体的には、本会が紺綬褒章対象の公益法人として認定された平成30年7月2日以降に本会へ寄付をされた方(本会会員および会員外の

方)に有効で褒章推薦のご希望を伺ったうえ、内閣府に推薦し閣議で決定されます。個人受章者には紺色の綬(リボン)が付されたメダルと天皇陛下からの授与・表彰する旨が記されて国璽が捺された「褒章の記」が授与されます。法人寄付者に対しては、同じ内容の褒状が授与されます。

本会は120周年記念事業をはじめ、多くの事業が今後も企画されており、そのための寄付を会の内外にお願いする必要があります。今回の紺綬褒章推薦団体としての認定など、民間団体として許される最大限の範囲で各種制度を導入しております。これらについて、日本山岳会の活動を支援してくださる会員外の方にも話しただくなど、ご協力をお願いいたします。

詳しいことにつきましては、事務局経由で公益法人運営委員会へお尋ねください。



ANNIVERSARY

チヨゴリザ初登頂60周年を迎えて

芳賀孝郎

60年前の私の山日記に、次のように記されていた。

「目前に素晴らしい山が見える。冷たい飛行機の窓に額を当てその山の威容に魅せられる。……ナンガ・バルバットである。生まれて初めて見るヒマラヤの山々を眺めて、その中で8000mの巨峰ナンガは勇壮を誇っている。

美しいメルヘンヴィーゼのベースキャンプからラキオット・ピーク、シルバーザッテルを経て最後の頂上に立った超人的登山家ヘルマン・ブルルの偉大さを、いまこの自分の目でしみじみと感ずる。

私はこれからヘルマン・ブルルの遭難したチヨゴリザ（7654m）へ登りに行くのである。私は心の中で必ずチヨゴリザの頂上に立つことを誓った。我々若い隊員、高村、岩坪と私を乗せたDC3型機が、無事パンジャブ・ヒマラヤを横断してスカルドに着陸したのは1958年6月19日である。」

私は一生のうちに一度はヒマラ

ヤへ行きたいと夢を抱いていた。

幸運にも加藤泰安副隊長の推薦で桑原武夫隊長の率いる京都大学学士山岳会チヨゴリザ登山隊に参加できた。

8月4日、藤平、平井の両隊員は18時間の苦闘を乗り越え、初登頂に成功した。私は登頂ができなかった。しかし、サポートとして十分に役割を果たしたことで、初登頂の感激を仲間とともに喜んだ。6700mの第4キャンプでは、ヘルマン・ブルルのテントを発見した。岩坪と2人で1週間滞在したとき、吹雪の夜には、ブルルのテントから亡霊が出るのではないかと恐れたことを思い出す。

チヨゴリザ登山を終えた8月12日、イタリア隊のフォスコ・マラーニ副隊長とガッシャーブルムIV峰の初登頂者ボナッティほか2名が我々のBCを訪ねてきた。

マラーニは北大に留学した経験があるので、流暢な日本語で「日本のお菓子と日本のお茶を所望する」ときたから驚いた。お茶でお互

いの初登頂を祝った。

登頂者のボナッティはヨーロッパを代表する登山家で、ヘルマン・ブルルの友人であった。ブルルのテントの中から山日記、コッヘルなどの遺品を持ち帰ってきていたので、その遺品をボナッティに渡した。彼は、遺品をブルルの未亡人へ手渡すことができる、と感謝の言葉を述べていた。

イタリア隊は歓迎のお茶のお礼にと、イタリア民謡「フニクラフニクラ」と「大尉の遺言」を見事な3部合唱で歌った。帰路につくイタリア隊の服装は、グレーのチロリアンハットにグレーのニッカボツカー、エンジのセーターにエンジのストッキングで、スチール・ポールを使って軽やかにモレーンを下っていった。

イタリア隊が帰った後、桑原隊長は次回の遠征までにイタリア隊と同じように、3部合唱の曲を歌えるように用意すること、さらに服装に関しても国際交流に恥じないスタイルを心掛けるようにと言われ、隊員たちは苦笑した。

12名の隊員のうち6名の生存者がいる。『花嫁の峰・チヨゴリザ』

を撮影した名物カメラマンで、101歳の潮田三代治。初めて日本に高所医学会を開設したドクター中島道郎。チヨゴリザの初登頂者、平井一正（神戸大学名誉教授）はシエルピ・カンリとクーラ・カンリ初登頂隊の隊長で、日本山岳会名誉会員。サルトロ・カンリの初登頂者・高村泰雄（京都大学名誉教授）。ノシャックの初登頂者・岩坪五郎（京都大学名誉教授）と、最年少者の私（84歳・元日本山岳会副会長）である。

8月5日、暑い京都に三十余名が集まり、桑原武夫隊長のお墓参りをした。隊長からの数々の訓えにお礼を申し上げた。その後チヨゴリザ初登頂60周年を祝い、若いころの隊員たちの顔が映るチヨゴチザの映画を鑑賞した。

チヨゴリザ会は、今回で解散することになった。



ボナッティにブルルの遺品を渡す
桑原隊長と加藤副隊長

REPORT

登山規制が緩和されつつある御嶽山

津野祐次

2014年9月27日午前11時52分、突然、水蒸気噴火を起こした御嶽山。その日、黒沢コースを登山していた私は、剣ヶ峰を目指して9合目の上、王滝頂上と二ノ池との分岐付近で噴火に遭遇した。

写真家の私は、噴火の瞬間から噴煙に包まれるまでの間に何枚かの写真を撮影、真実の姿を伝えて欲しいという報道関係者の要望にお応えし、写真を提供した(本会報でも2015年9月号で既報)。

死者56名、行方不明者7名という大惨事に巻き込まれた皆様と、関係する皆様に心から哀悼の意を表したい。危険な任務にあたった自衛隊員、消防隊員、警察官らの懸命な人命救助や捜索。医療関係の皆様の手厚い治療や看護。各自自治体の適切な処置や行動。報道関係者の迅速な情報公開をするための惜しみない努力。各山小屋の登山者に対する身の安全保護や受け入れ対応など、これらすべての皆様の知恵と、汗の結晶を忘れてはならないと思う。そして、こ

れらの皆様の桁違いの人間愛に触れたことを、後世に語り継いでゆかなくてはならないと強く感じている。

1979年に有史以来の噴火

1979年10月28日、有史以来の噴火活動を開始した御嶽山は、人々を驚愕させた。そのときの噴火活動の中心は、剣ヶ峰の南側直下に新しく生成された小規模な火口群で、小さな諸火口を6列、約500mにわたり形成したとされる。御嶽山におけるそれまでの社会通念は、死火山と考えられていたで、見事に覆されたのである。火山活動への備えが十分でなかったことが実証された瞬間でもあり、政府は直ちに火山予知態勢の見直し作業を実施。活火山の数が66山から83山へ17山もプラスしたという。ちなみに、予知連絡会は現在100山を超える活火山を認定するに至っている。

1979年の噴火を契機に、それまで御嶽山には王滝村の松尾ダ

ムと、高山市日和田に地震計2台を設置していたが、少しずつ観測機器の設置を増やし、観測態勢を強化していった。1991年と2007年の小規模な噴火の際は、御嶽山における噴火の先行現象なども観測された。さらに御嶽山の噴火の歴史についても、調査・研究が火山地質学者らによって行なわれ、噴火のメカニズムや歴史が明らかになってきた。過去1万年の間にマグマ噴火が4回あり、雲仙・普賢岳と同等クラスの噴火質量を持つ噴火だったことや、8000年間には11回の水蒸気爆発が起ったことが、地層に残る火山灰から推定された。

それからわずか35年後に同規模での水蒸気爆発が勃発したことは、誰もが想定できなかったと言わざるを得ない反面、噴火予測がどうしてできなかったのかと残念に思う。日本の活火山の中では一番標高の高い御嶽山は、噴火という自然の猛威を振るう山にもかかわらず、2014年の噴火の際は、王滝山頂に長野県が設置した地震計が故障し、貴重なデータを得る設備が稼働しなかったという。これは高地という厳しい山岳環境下で



再建が進む二ノ池山荘(旧・二ノ池本館)の建設現場

あり、噴火を予知するための機器の維持が困難を極めたのではないかと、という課題を残した。

2014年の水蒸気爆発は、1979年の火口とは異なり、標高2800m付近の地獄谷上部に列をつくる火口群と、一ノ池火口西斜面に生じた割れ目状火口で、これまでに火口の痕跡もなかった地点に新たに開いたものだったと発表された。

再び御嶽山と向き合う

噴火に遭遇した私は、その後山に登る意欲が薄らいでしまった。意識外で私の身体が山を拒んだのだろうか。約1年間は御嶽山を望



南方から見た、水蒸気の昇る地獄谷火口と剣ヶ峰(奥)

むことのできる御嶽山麓を訪れ、献花台に足を運んだり、御嶽山を飽きることなく眺めた。夜半、体が震えて硬直状態の症状や、呼吸が困難になったりするときもあった。しかし、心の底から山の自然と写真が好きであることに変わりなく、再びザックにカメラ機材を忍ばせ山に向かうことができた。私を支援し続けてくれ、長谷アルプスフォトギャラリーを運営する(株)ヤマウラをはじめ伊那市長や山の仲間、友人たちの励ましのお陰であった。

再び御嶽山を訪ねたのは2017年6月16日。実に2年9ヶ月ぶりの入山であった。新緑が鮮やか

な黒沢コース8合目を越え、8合目半あたりでは黒く焦げた炭状の高山植物を目の当たりにし、残雪の急斜面を踏んで9合目に出た。さらに二ノ池では生コンクリートを敷き詰めたような光景を目にし、泥炭状の降灰大地に足跡を残しつつ賽ノ河原へ下り、摩利支天山を往復した。ハイマツが立ち枯れた斜面や、生々しい噴火の跡があらこちらに残っていた。剣ヶ峰の山頂へは入山規制のため立ち入ることができなかったが、近くで眺めた光景は、まるでコンクリートの鎧をまとったような剣ヶ峰の山姿であった。



賽ノ河原では、今も変わらず高山植物が花を咲かせる

が生々しい樹木や植物たちの地獄の様相と、賽ノ河原から三ノ池や飛騨頂上にかけて今も健在な植物相や、雷鳥の生息する豊かな大自然を再確認した。この相反する両面を併せ持つ御嶽山は、山岳信仰の殿堂となり得る地形と自然を内包するからこそ、私たちを魅了し続けるのだらうと改めて思う。

噴火警戒レベル1に引き下げ

御嶽山の噴火警戒レベルは、2014年9月の噴火直後は「3」に、翌年6月には「2」に、2018年8月21日には「1」へと引き下げられた。しかし、王滝頂上や剣ヶ峰への立ち入り規制は引き続き残っている。登山者の安全を第一に、王滝頂上山荘と剣ヶ峰付近の宿泊施設は設置せず、登山者が滞在しない通過型とし、シェルターや避難小屋を整備するという。剣ヶ峰山頂直下に限りコンクリート製の30名収容可能なシェルター3基の設置が

整い、9月26日正午～10月8日までの期間限定で規制が緩和された。王滝コースに関しては、2019年度以降の全解除を目指すという。濁河温泉ルートは、登山口付近から新たな道が開通し、飛騨頂

上を経て二ノ池まで上がれる。開田コースは三ノ池を経て二ノ池まで通行可能である。一方、山小屋は黒沢コース7合目の行場小屋、8合目の女人堂、9合目直下の石室山荘、二ノ池ヒュッテ、五ノ池小屋はすでに営業を開始している。

黒沢コース8合目～三ノ池間は、台風通過後や多量の降雨後にコースが崩壊する恐れがあるので、登山前にウェブ上で検索するなどしてから入山したい。また、各コースとも気象庁の御嶽山噴火活動状況などを把握し、ヘルメットやマスキを用意するなど、突発的な噴火に十分備えた上で登山計画を立てたい。いずれにしても、国、長野・岐阜の両県、御嶽山を取り巻く各市町村は、ハード、ソフトの両面から登山者の安全対策を吟味し、実行に向け真剣に取り組んでいる。山を愛する私たちにはありがたいことである。

御嶽山は日本一をいくつも持っている。活火山の中では一番標高が高く、湖と滝も一番高い。誰もが安全に登山できる日が早く来て欲しいと私も願っている。

(写真家、伊那市在住、日本山岳写真協会南信支部長)

REPORT

支部創設以来、日光と那須で
清掃登山を実施中

栃木支部自然保護委員長 石澤好文

本支部において、支部創設以来継続して実施している「日光清掃登山」および「那須クリーンキャンペーン&清掃登山」の2事業について報告します。「日光清掃登山」は栃木県山岳連盟との共催事業、「那須クリーンキャンペーン&清掃登山」は栃木県山岳・スポーツクライミング協会、栃木県勤労者山岳連盟と共催で実施しています。この2事業は、平成23年度から「山の日制定プロジェクト」の一環として取り組み、山の日の普及と啓発活動を兼ねて実施してきました。

日光清掃登山

6月30日(土)に日光湯元キャンプ場で、17時より栃木県自然環境課・丸山哲也氏による「日光における、これまでのシカ対策」と題した講演会を開催。その後18時30分より21時まで、清掃登山に先立ち関係者49名が参加し、栃木県山岳連盟自然保護委員会主催の前夜祭が、湯元キャンプ場の炊事場を中心に行なわれました。

翌7月1日(日)は晴天に恵まれ、18団体128名の参加の下、朝7時30分に湯元のビジター・センター前広場で開会行事を実施したのち、各会に分かれて清掃活動を実施しました。本支部は会員5名と一般参加者4名で、親子登山教室の下見を兼ねて日光白根山に登山しました。ただ、ゴミは全部で5個拾っただけ。それもセロハンの切れ端とか、小さな金具しか落ちていませんでした。

登山者が多く、渋滞ぎみ。特に山頂でのお昼は無理との判断から、山頂手前の尾根で昼食にしました。男体山はもちろん中禅寺湖が見え、絶景を堪能することができました。親子登山教室の下見を兼ねており、休憩ポイントや下山ルートを確認しました。弥陀ヶ池へ下りましたが、急斜面で岩場のため落石を受ける危険が想定され、親子登山教室では危険と判断し、ピストンとすることに決めました。11時45分、日光白根山頂に到着

後、弥陀ヶ池經由で山頂駅に戻り、ロープウェイ山麓駅に14時5分到着、湯元温泉に移動し15時15分解散しました。

那須クリーンキャンペーン&清掃登山

9月1日(土)、峠の茶屋見晴らし園地で開催された前夜祭には関係者30名が参加し、18時より懇親会が開催され、21時まで親睦を深めることができました。

9月2日(日)、那須岳山城の美化を目的に、クリーンキャンペーン&清掃登山が開催されました。今年度も山の日協議会関連イベントとしての開催で、小雨の中、7時30分から峠の茶屋駐車場で18団体114名が参加し、開会式が行なわれました。

本支部からは5名が参加し、茶臼岳・牛ヶ首・南月山のコースで清掃活動を実施しました。雨も上がり晴れ間の見える中、8時に峠の茶屋を出発。峠の茶屋から登り9時40分、茶臼岳に到着。茶臼岳からは360度の展望を楽しむことができました。暑くもなく寒くもなく絶好の登山日和でした。

ロープウェイ山頂駅經由で10時40分、牛ヶ首に到着し、天気も良

いので予定どおり南月山を往復することにしました。途中、リンドウやトリカブトの花を眺めながらの楽しい山行となりました。11時40分、南月山に到着し、昼食にしました。12時40分、牛ヶ首に到着。峠の茶屋經由で峠の茶屋に戻り、13時30分、峠の茶屋にて解散しました。

登山道にはほとんどゴミは落ちていませんでしたが、清掃活動を行うことが一般登山者への啓蒙になると思われますので、今後も清掃登山を継続していきたいと思っております。



参加者の皆さんで記念撮影。「山の日」をアピールする

さんけん通信

コヒオドシとツガカレハ

元川里美

コヒオドシ(小緋緘)という蝶は

成虫で越冬します。マイナス20度Cの上高地の冬を、どのように過ごしているのかは分かりませんが、まだ雪の残る4月の開所直後、山研テラスの陽だまりで翅を広げている姿をよく見掛けます。6月になると、新しく生まれた幼虫たちが、食草のイラクサで群れるようになります。幼虫は黒い毛虫なので嫌悪されがちですが、どこにもいるというわけではない高山蝶ですから、興味のある人ならば「お



羽化したばかりのコヒオドシ。まだ右翅が一部開いていない

やつ」と気付いて覗き込みます。

そのコヒオドシの幼虫が、今年山研の周りのイラクサに数えきれないほど発生しました。自然界の常として成長するにつれて数は減り、終齢幼虫のころには、見える範囲に10匹ほどが残っていました。さらに蛹化を確認できたのは、そのうちのわずか3匹でした。蛹になると、彼らはイラクサから笹へと移動しますが、蛹化の仕方は実に三者三様でした。最初の1匹は笹の茎にぶら下がってはみたものの、その後続いた長雨に打たれ過ぎたのか、ほどなく落下してしまいました。2匹目は笹の葉の裏側にぶら下がり、念入りにもう1枚の葉を糸で引き上げて、横にも雨除けを作りました。最後の3匹目も葉の裏側にぶら下がりましたが、この子は横の壁までは作らず、やはり数日後には消えていました。そうして唯一残った2匹目の蛹を観察することが、私の当面の日課となりました。変態という、私の理解を超えた出来事が、わ

ずか数cmの蛹の中で起きていることが不思議でした。

ところが、そろそろ羽化が始まると思われる2週間が過ぎ、さらに時が流れてひと月が過ぎて、蛹には一向に変化の兆しがありません。それでも諦めきれずに観察していたある朝、笹ヤブの奥から1頭のコヒオドシがハタハタと飛び出してきて、山研の外壁にとまりました。翅は潤いを帯びてピロロドのようになめらかで、ひと目で羽化したばかりと分かりました。きつと見えない所で羽化した個体です。カメラを片手にじわじわと詰め寄り写真を撮ってみると、まだ翅の一部が折り畳まれたままです。そのコヒオドシは、ゆつくりと翅を開閉しながら、随分と長い時間、壁にとまっていたようですが、いつの間にかどこかへ飛んでいつてしまいました。そして、例の蛹はというと、幾度目かの台風でついに落下してしまったので、結局、今年1羽も羽化の瞬間に立ち会うことができずに終わってしまいました。

ツガカレハ(梅枯葉)という蛾との忘れられない出会いもありました。7月中旬、いつものように裏

のテラスで洗濯物を干していると、物干し竿の端に小指の頭ほどの白い繭が付いているのを見付けました。こんな所にも思いつつ、邪魔でもないでそのままだにしてみました。しかし翌日、おそらくその繭の毒針が付着したシャツを、そうとは知らずに着てしまい、首から背中にかけて蕁麻疹状に赤い腫れが広がってしまったため、見かねた山研委員に促されて皮膚科医院へ行くことになりました。

美しい女医さんは症状を見るや「毛虫ね」と言いながら、すぐさま最強のステロイドを処方してくれました。そんな散々な目に遭いはしましたが、やはり虫を恨む気にはなれず、こちらが注意すれば済むことだからと正体を突き止めたところ、ツガカレハという蛾の幼虫の繭であることが分かりました。ツガカレハは成虫になると毒は持ちませんが、幼虫の体と繭には小さな毒針が仕込まれていて、うつかり触れて気付かずにいると、搔くたびに毒針が砕けてどんどん広がる仕組みになっているそうです。この恐るべき防衛機能は、苛酷な自然の中で弱者が生き延びるための精一杯の知恵なのだと思います。



追悼・小須田喜夫さん

高澤光雄

小須田喜夫さんは、戦前の学生時代は東北薬科大学山岳部に所属し、蔵王山や大朝日岳、早池峰山などに登っていた。戦時中は陸軍旭川北部第三部隊に入隊し、軍隊のスキー部長を務められ、近郊の山で指導登山に勤しむ。終戦で復員後は、大衆登山を目指していた札幌山岳倶楽部に入部し、昭和24年12月から翌年1月にかけて、十勝三股から音更山、石狩岳を縦走

追 OBITUARY 悼



している。

北大山岳部員の中野征紀氏から「日高山脈の中ノ岳は、中ノ川から頂上へは、まだ誰も登っていない」と知らされ、中ノ岳登山を決意する。そして、昭和26年12月から翌年1月にかけて、この未踏の中ノ川から中ノ岳に挑んだが、参加者の登山技術が揃わず、頂上直下で断念せざるを得なかった。

昭和27年に小須田さんは札幌山岳倶楽部を退会し、同年3月23日に札幌山岳会を組織し、会長を歴任する。

小須田喜夫 (こすだ・よしお)

会員番号3593

(1949年入会、1964年復活)

1921年3月6日 札幌市生まれ

戦前は東北薬科大学山岳部、戦時中は陸軍旭川北部第三部隊に入隊、スキー登山を指導
万有製薬(株)札幌支店に勤務

1952年3月 札幌山岳会を創設

1954年1月7日 日高山脈の東海岸から廻行し、中ノ岳登頂

1954年12月28日～55年1月12日

知床半島・羅臼岳から硫黄山本峰へ冬期初縦走

1990年 北海道支部長に就任

2018年6月3日 逝去、享年98

昭和28年12月28日から翌年1月13日にかけて中ノ岳に再挑戦。1月7日に登頂を果たしたが、西海岸から挑んでいた北大山岳部がすでに1日に登っていて、残念ながら第2登となる。この記録を『岳人』72号(昭和29年4月号)に、小須田喜夫「北海道・中ノ岳登山」と題して寄稿、写真、略図入りで4ページにわたって掲載された。

昭和29年12月29日から翌年1月12日にかけて、知床半島・羅臼岳から硫黄山への冬期初縦走を成し遂げた。27年末から京都大学山岳部が知床岳より硫黄山東峰まで縦走したが、本峰には登っていないので、この計画を実施した。

昭和34年7月に、清水孔版社から山岳雑誌『北海道の山』が創刊された。小須田さんは3号に「初心者のための冬山指針」を、7号に「冬山経験・雪をみたらなだれを思え」など、登山技術指導の原稿を執筆されている。

私が小須田さんと頻りに会うようになったのは、平成2年5月開催の日本山岳会北海道支部総会で、第5代支部長に就任してからである。当時、私は編集委員を担当し、支部運営を盛り上げるために奔走

していて、支部長から多くの書状をいただいている。特に登山行事については、多くの参加者を募っていた。平成2年の狩場山、十勝岳から富良野岳。3年の雷電山、羊蹄山、雄針岳。4年のニセコアンヌプリ、比布岳から愛別岳、芽室岳など諸行事が思い出される。

支部長退任後は、評議員を平成5年から4年間務められ、25年に永年会員となられた。

平成11年7月に、日本山岳会北海道支部は創立から30周年を迎えたが、記念誌『北海道山岳』に、小須田さんには「中ノ岳(ルウトウルオマップ岳)」その時代の回想あれこれ」と題して執筆していた。

平成14年春、独りで朝里岳にスキーで出掛け、その年の7月に脑梗塞で倒れて5ヶ月間入院。その後リハビリのために通院、在宅介護を受けながら車椅子生活に。平成30年4月に発熱し、肺炎の疑いで愛全病院に入院。6月3日夕刻、病状が急変し、ご家族に見守られながら永眠された。

最後に、日本山岳会には永年のご交誼に感謝申し上げ、故人のご冥福をお祈り申し上げます。

N 東西南北 S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします）

続々・秘峰登山のススメ 〈下〉

西川元禧

現岳などの岩峰群を間近に眺めることができる。どちらとも秘峰としてお薦めしたい。

ハケ岳は山小屋が適所にたくさんあり、しかもありがたいことに通年営業しているので一年中楽しむことができる。山小屋を利用しながら蓼科山(2531m)をスタートして双子山・大岳・北横岳(2480m)という具合に、北八ツから主稜線を赤岳(2899m)・権現岳・編笠山(2524m)・小淵沢まで歩いた。このとき、北八ツの中山峠少し手前の主稜線から分かれて北東へ樹林帯を50分で到着するニュー(2352m)は、静かで頂上は展望も良い。ハケ岳南部では編笠山手前の青年小屋から西に1時間で行ける西岳(2398m)も静かで、ハケ岳核心部の阿弥陀岳(2805m)、赤岳、権

北アルプスからは雲ノ平の祖父岳(2825m)を追加したい。雲ノ平の幕营地から1時間ほどで登ることができる。古いケルンがいくつもあるので、昔から登山者が登ってきたのだろうが、今はだれもない。周りを薬師岳(2926m)、黒部五郎岳(2840m)、三俣蓮華岳(2841m)、鷲羽岳(2924m)、ワリモ岳(2888m)、水晶岳(2986m)、赤牛岳(2864m)に囲まれ、遠く北には立山・剣岳、南には槍・穂高の山々も見える贅沢な眺め。翌朝は3時間下って高天原の露天風呂で、正面に足下の黒部川から頂上までの薬師岳の大きな山体を見上げながらゆっくり湯に浸かったのち、岩苔小谷を登り、水晶岳・赤牛岳を経て黒部湖へと下った。

京都は三方を山で囲まれアプロ1チが短くて市民に親しまれている。頂上に立派な神社がある愛宕山(924m)や延暦寺で有名な比叡山(848m)、大文字山(466m)などは登山者も多い。ところが北山の枚敷ヶ岳(896m)、雲取山(911m)、品谷山(881m)など、意外にも登山者に会わない静かな山も多い。同じ北山では、静かで途中に八丁平という高層湿原があつて変化に富み、頂上は疎林に囲まれているが、北山では展望が良い方の峰床山(970m)をお薦めしたい。頂上から芦生原生林を眺めたのち、オグロ坂峠を経て樹林に囲まれた静かな鎌倉山(950m)にも登って、鯖街道の滋賀県坊村へと下った。

岡山県の後山(1344m)は県の最高峰で、地元の登山者がけっこう登っている。ところが、稜線を西へ20分で船木山(1334m)、さらに西へ1時間進んで駒ノ尾山(1281m)まで来ると、静かな山頂からは、後山への緩やかな稜線の山並みと、南東には一等三角点の日名倉山(1047m)も見えて眺めが良く、お薦めしたい。岡山からはもう1つ、三百名山で登

山者が多い那岐山(1255m)頂上から稜線を西へ10分で三角点ピーク(1240m)があり、左(南)へ向かうとキャンプ場方面への道であるが、そのまま西へ1時間ほど進むと滝山(1196m)に着く。静かで展望も良く、剣岳の測量で有名な柴崎芳太郎が設置した一等三角点がある。この山もお薦めしたい。

福岡市の南、脊振山系の山々の雷山(955m)、井原山(983m)、金山(967m)、獺師岩山(893m)などは、大宰府から登る宝満山(830m)とともに福岡市民に親しまれ、登山者が多い。対して山系の主峰・脊振山(1055m)から稜線を南東へ2時間弱の蛤岳(863m)は訪れる登山者が少なく、静かでお薦めしたい。頂上には直径3mの蛤岩があり、樹林に囲まれているが樹間から東に九千部山(848m)、西に天山(1046m)を望むことができる。下山を南にとると、400年前、鍋島藩によって灌漑用として造られ、今も使われている蛤水道に沿って歩き、やがて坂本峠に着く。近くには吉野ヶ里遺跡がある。

宮崎県椎葉村の南隣に位置する

平成30年度年次晩餐会のお知らせ

総務委員会

12月1日(土)、京王プラザホテルにて年次晩餐会を行ないます。

案内状は、昨年同様会報「山」(10月号)に同封して発送いたします。申し込み方法は、参加費の振込み(同封の振込用紙を使用)によるものとさせていただきます。

平成最後の展示・講演など記憶に残る催し物を考えております。詳細は、同封の案内状をご覧ください。

開催日＝平成30年12月1日(土) 受付は12時30分から。
会場＝京王プラザホテル(東京・新宿)

西米良村には、村の中心を流れる一ツ瀬川を挟んで西に市房山(1721m)、東に石堂山(1541m)、その南に天包山(1189m)があり、米良三山と呼ばれている。登山者が多い二百名山の市房山に對して石堂山は登山者が少なく静かだ。登山口から3時間で着く頂上には、霧島六社権現の祠がある。疎林に囲まれているが西に市房山南には霧島連山、東には尾鈴山(1405m)などが見える。5月には市房山と同様、アケボノツツジやミツバツツジが咲いて登山の楽しみが増える。秘峰としてお薦めしたい。

(完)

胆振東部地震を
札幌で体験して

新妻 徹

9月6日午前3時6分ごろ、私の住み慣れた山鼻地区でも震度5の地震があり、本棚のCDシートが落ちてきた。道内の全域295万戸が停電となり、札幌ではJRも地下鉄もバスも終日ストップした。水道の水は出ない。マンションのエレベーターは動かない。近くの東光ストアは臨時休業、ラルズ(南12西11)には食料などを求める長い人の行列ができた。6日の夜は150年前の蝦夷地のような暗い闇に包まれたが、大きな交通事故もなく、何よりも火災がなく7日の朝を迎え、遅く配達された新聞で、ブラックアウト(大規模停電)という言葉を知った。

私の教員免許は理科であり、高校で地学を担当したこともあるが、新聞やTVによると胆振東部から石狩にかけて約15万年前以降の火山灰や砂が堆積した地層の地盤が固まっておらず、軟らかい堆積層(ハロイサイト)があり、震源近くの地下で最大約7cmの隆起があつた。

長さ15kmの断層で、スリバーによる岩盤ズレで3800ヶ所の土砂崩れがあるという。

私は北海道の先住民族アイヌの足跡が多い厚真・白老・平取地区に関心を持ち、厚真高校に勤務したことがある。厚真川の洪水で厚真高校は昔の練兵場跡に移設し、町立から道立高校へ移管したあとの人事異動だった。なお、苫小牧東部地区の開発、厚真火力発電所の充実などで町民の意識は高揚していた。当時、千歳川が石狩川に合流する地域で降雨による水害が多発し、千歳川を苫小牧方面に流れる安平川に水路を変更させようという、千歳川放水路開発が検討されていた。私は北海道高等学校理科研究部会(略称・北理研)で、千歳川放水路案に反対した。もし千歳川の水量が安平川に放水されたら、稲作地帯の年平均気温が約2(3度(摂氏)低下するのではないかと推論したが、厚真の人たちは北理研の私の発表を支持された。厚真の田園地帯の夜空の星は美しく、町役場の横にプラネタリウムがあり、苫小牧方面の学校からも星の学習に貸切りバスで来町していた。私の妻(喜恵子)は4姉妹

の次女で、長女(喜与子)が心臓喘息で他界し、2人の妹(喜和子・喜久子)を含めてオリオン星座の四角形の中に輝く3つの星を「さんじょ様」と呼んで、夜中の12時に南中するオリオン星座を見つめ、カエルの合唱を録音していた。夜のホタルの光が少数になるのを心配して、厚真ホタルの会を作り、農薬散布のない厚真の自然の美しさを話した。厚真ホタルの会では、野尻抱影の『星の話』を読む人が増えて、妻の手料理で男性の会員も多くなった。

帯広から静内方面への交通は、日勝峠と天馬街道があるが、さらに日高山脈の南部と北部を分ける位置にあるカムイエクウチカウシ山にトンネルを造ろうという動きが加速し、帯広の札内川六ノ沢あたりまで開発が進んでいたが、ナキウサギの生態域が破壊される心配もあり、日本山岳会北海道支部や自然保護団体は反対した。厚真ホタルの会を中心として厚真町の人たちは、この運動に協力された。その後の人事異動で私は余市高、札幌月寒高の教頭職を経験して、厚真高の校長として道教委の発令を受けた。厚真町の人たちは、「蛙

が母なる川に回帰するように、新妻先生の厚真回帰大歓迎！」と言って、新しい校長公宅に案内してくださいました。

私は厚真山の会を立ち上げて樽前山や風不死岳、恵庭岳などへ町民登山会を実施。厚真高校を開放して「ワープロ講座・フォークダンス教室・山の歌の集い」など好評だった。私の妻は、「お琴に触れましょう」という教室を、校長公宅を開放して月に2回のペースで開き、生徒や町民と親しくなり、町の行事にも笑顔で参加していた。

日本山岳会の人たちは、日高山脈の山旅の帰りに厚真に寄り、校長公宅で下山報告会をしたり、私は千歳空港まで見送りしたり、充実した厚真ライフだった。そのような私の大切なユートピア厚真の緑が、土砂崩れで壊滅という訃報に接した。私のサブザックには、ヘッドランプ・非常食が入っているが、自然災害の恐ろしさに言葉を失っている。平成4年3月末日に定年退職できた厚真地区は、私の大切なドリーム・エリアである。

(北海道支部)

新入会員(2018年9月)

氏名 (年齢)	会員番号	居住地	紹介者		支部名
大野 和子 (71)	16401	東京都千代田区	永田 弘太郎	安井 康夫	
安田 宏記 (55)	16402	東京都世田谷区	永田 弘太郎	安井 康夫	
鈴木 康 (61)	16403	東京都世田谷区	森 武昭	近藤 雅幸	
安倍 いづみ (53)	16404	東京都江戸川区	永田 弘太郎	安倍 博之	
荒井 理 (47)	16405	栃木県芳賀郡	渡邊 雄二	深谷 篤志	栃木
増田 敏夫 (69)	16406	愛知県名古屋	志水 龍雄	高橋 玲司	東海
高麗 秋広 (65)	16407	福島県伊達市	渡部 展雄	佐藤 一夫	福島
渡辺 京子 (53)	16408	神奈川県相模原市	大槻 利行	元川 里美	神奈川
藤野 宣知 (39)	16409	埼玉県川口市	野澤 誠司	東 秀訓	
元川 嘉治 (66)	16410	埼玉県本庄市	元川 里美	大槻 利行	
須見 遼介 (21)	16411	京都府京都市	中山 茂樹	野澤 誠司	
久保田 芳行 (58)	16412	埼玉県東松山市	松本 敏夫	古川 史典	埼玉

新入準会員(2018年9月)

氏名 (年齢)	会員番号	居住地	紹介者		支部名
林 洋子 (59)	A0184	東京都大田区	永田 弘太郎		
宮坂 実 (59)	A0185	東京都港区	山田 和人		
高野 正明 (70)	A0186	山梨県山梨市	深沢 健三		山梨
渡辺 理雄 (50)	A0187	岩手県盛岡市	高橋 慎一		岩手
田中 清貴 (29)	A0188	山口県山口市	歳弘 逸郎		北九州
赤坂 優貴 (51)	A0189	東京都青梅市	山本 憲一		東京多摩
赤坂 憲子 (51)	A0190	東京都青梅市	山本 憲一		東京多摩
藪中 由利子 (72)	A0191	千葉県柏市	原 満紀		
谷田 正昭 (72)	A0192	埼玉県所沢市	永田 弘太郎		
松尾 悦子 (66)	A0193	東京都立川市	山本 憲一		東京多摩
横山 裕 (28)	A0194	東京都目黒区	飯田 祐一郎		
吉田 麻紗子 (39)	A0195	東京都杉並区	永田 弘太郎		
市川 絵理 (36)	A0196	東京都台東区	永田 弘太郎		

寄付金及び助成金などの受入報告（平成30年8月31日まで）

寄付者など	受入金額など (単位千円)	寄付の目的、その他
アルパインツアーサービス㈱	20	山のマナーノート
小林 政志 理事	30	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
笥 邦男 会員	20	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
古川 研吾 理事	50	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
坂井 広志 会員	30	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
大谷 亮 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
前川 晋也 会員	50	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
東 政孝 会員	20	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
和田 薫 会員	20	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
野澤 誠司 理事	50	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
西納 久之 会員	10	有志からのご寄付のお願い に対する永年会員からのご 寄付
野口 いづみ 会員	10	山のマナーノート
植木 貞一郎 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
神長 幹雄 理事	30	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
	30	法人運営費用
㈱総合サービス	50	山のマナーノート
高野 剛 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
永田 弘太郎 理事	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
福田 光子 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
出江 俊夫 会員	5	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
滝川 敏康 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
野澤 岳大 会員	30	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
長谷川 恵理 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
涌嶋 満 会員	2	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援

寄付者など	受入金額など (単位千円)	寄付の目的、その他
江川 知史 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
葉上 徹郎 会員	6	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
北原 秀介 会員	20	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
大槻 利行 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
吉川 正幸 会員	30	視覚障がい者登山全国大会への指定寄付
台 とみ子 様	3	山のマナーノート
東京多摩支部	2	山のマナーノート
矢崎 辰雄 様	2	山のマナーノート
南井 英弘 会員	10	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
㈱ICI石井スポーツ	20	山のマナーノート
町澤 健司 会員	2	山のマナーノート
福岡 孝昭 会員	10	山のマナーノート
江花 俊和 会員	1	山のマナーノート
伊藤 謙二 会員	10	山のマナーノート
山本 正基 会員	1	山のマナーノート
高石 聡 様	3	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
石原 秀郎 会員	10	山のマナーノート
平野 裕也 会員	10	山のマナーノート
畑島 良一 会員	1	山のマナーノート
西村 智磨子 会員	1	山のマナーノート
	5	視覚障がい者登山全国大会への指定寄付
イツキ マサキ 様	5	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援
明治大学体育会 山岳部 炉辺会	750	日本山岳会青年部チャムラン登山隊2018への支援

図書交換会出品目録および購入申込みの案内

今年も年次晩餐会で「図書交換会」を開催します。出品本は約300冊です。交換会当日の詳細は18ページの「インフォメーション」に掲載していますが、会場に来場できない方は、下記の要領で購入の申込みを行なってください。

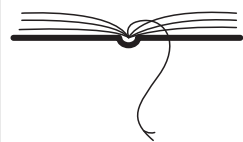
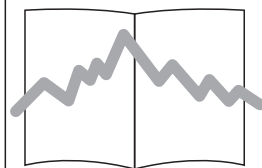
- 郵便(日本山岳会 図書委員会宛)またはメール(図書委員会 ☐tosho@jac.or.jp)で11月15日までにお申し込みください。
- 購入希望図書の番号、書名、購入希望者の名前と会員番号を必ずご記入ください。なお、今回入札本はありませんでした。
- 複数の申し込みがあった場合は、当日に会場で抽選を行ないます。来場できない方の抽選は図書委員が代行し、本は交換会終了後にお送りします。
- 購入図書の送料は購入者負担とし、代金と一緒に請求させていただきます。

ナンバー	書名	著者	出版社	発行年、その他	価格
22	山・人・本	島田 巽	茗溪堂	1976 初版 函	500
24	わたしの草と木の絵本	坂本直行	茗溪堂	1976 初版 函	600
41	新稿 剣岳 登攀ルート解説	高須茂 高瀬具康 佐伯邦夫	築地書館	S40 第二版	500
67	登って写して酔いしれて	武藤 昭	白山書房	2007 第一刷 サインあり	500
73	それでも私は山に登る	田部井淳子	文藝春秋	2013 第一刷 帯	500
75	奥秩父 山、谷、峠そして人	山田哲哉	東京新聞社	2011 初版 帯	500
100	山靴の音	芳野満彦	朋文堂	S34 初版 函	500
109	続・生と死の分岐点	P・Schubert 黒沢孝夫訳	山と溪谷社	2004 初版 カバー・帯	500
111	全盲のクライマー、エヴェレストに立つ	E・ヴァイエエンマイ ヤー 海津正彦訳	文藝春秋	2002 第一刷 カバー・帯	500
113	冒険の蟲たち	溝淵三郎・興田守孝・ 長篠哲生	白山書房	2009 第一刷 カバー・帯	500
144	アグルーカの行方	角幡唯介	集英社	2012 第一刷	500
145	空白の五マイル	角幡唯介	集英社	2010 第一刷 2011 第七刷カバー・帯	500
147	ザ・グレート・ゲーム 内陸アジアをめぐる 英露のスパイ合戦	ピーター・ホップカーク 著 京谷公雄訳	自費出版	2011 カバー	500
148	先蹤者 日本岳人全集	大島亮吉	日本文芸社	S45 改訂再発行 カバー・函	500
152	ヘディン探検紀行全集別巻1 カラコルム探検史(上)	監修 深田久弥ほか	白水社	1979 初版 函	1,500
153	ヘディン探検紀行全集別巻2 カラコルム探検史(下)	監修 深田久弥ほか	白水社	1980 初版 函	
155	登高行 XX 100周年記念号 2015	慶應義塾体育山岳部	慶應義塾体育山岳部	H27 函	500
196	エベレスト北東稜 1995 登山報告書・ 学術調査報告書	日本大学エベレスト 登山隊1995編	エベレスト登山 実行委員会	1996 初版 セット本 函	1,000
208	山の想ひ出 上巻 ・下巻	木暮理太郎	福村書店	1953 1954	500
Y1	KANCHENJUNGA CHALLENGE	Paul Bauer	WILLIAM KIMBER	1955初版 サインあり	500

●頒布価格が400円以下の本を省略しています。全目録はホームページ(図書委員会)から検索できます。また、必要な方にはお送りしますので、お申出ください。

●目録の申し込み、問合せは日本山岳会事務局(図書委員会)まで ☎03-3261-4433 ☐tosho@jac.or.jp

図書紹介



池田常道著

ヒマラヤ 生と死の物語 奇跡の生還と遭難の悲劇



2018年4月
山と溪谷社 287頁
四六判 1600円+税

本書はヒマラヤで発生した山岳事故の記録として13話の物語を収録している。事故の発生状況を、当事者のインタビューや写真を交えながら、事実に基づいて、またときおり作者の鋭い洞察を交えながら、時代の古い順に語られている。著者の池田常道氏は山と溪谷社で、山岳登攀専門誌である『岩と雪』の編集長を最終号まで約20年務め、フリーとして独立後も精力的に『世界の山岳大百科』の監修や『現代ヒマラヤ登攀史』を上梓するなど、知る人ぞ知る登山史の大家である。

ネット新聞で、今年も夏場の山岳事故件数が過去最悪だったという記事を読んだ。つい先日、著名な若い登山家がヒマラヤで遭難するという痛ましい事故の知らせがあった。遭難は気象、病気、ケガ、道迷いなど様々な原因で発生する。本書の冒頭で、「山で遭難するのは、いいことなのか悪いことなのか？」と読者に疑問を投げかけている。世間一般の反応は、「悪いと断じて遭難者の無謀ぶりを言い立てて、厳しく糾弾して止まなさい」というのが一般的である。一方では、エヴェレストへ無事登頂し、世間の脚光や称賛を浴びる登山家もいる。

ではいつたい、生と死を分けるものは、なんであろうか？ 著者は断言している。「生死の境目は、とくにヒマラヤのような極限の環境の下では、文字どおり紙一重に過ぎない」。いったいなぜ、そんな危険のある山に登山家は挑戦しようと思うのだろうか。第1話に登場するマロリーの答えは簡潔である。「Because it's there」。当時のNew York Timesのインタビュー記事に目を通すと、マロリーは「3回目のヒマラヤ遠征を前にして、建前上は調査が目的ではあるが、私にとつてはむしろ人類として初めて未踏峰に登頂するという、(極端な言い方をすると)宇宙を征服したいという人間の根源的な欲求に突き動かされている」と答えている。また、「少年たちが(競つて)岬の突端から海に飛び込むような冒険心」に突き動かされているとも語っている。本書の最終話には公募隊の物語も掲載されている。

人生一寸先は闇。何が起こるか分からない。チャンスと少しの勇気があれば、ヒマラヤは手の届く場所にあるのかも知れない、と妄想する毎日である。

(加藤大雄)



図書室から

8月号に紹介のあった『パミール中央アジア研究会 20周年号』に続いて『新世紀の中央アジア10周年記念号』を寄贈していただきましたので紹介します。本書ではまず、田村俊介会員の手になるカラーの「パミール・中央アジア全図」と、A・N・ゼリンスキー(1964)が提起した「パミール古道」(大パミール道、小パミール道、懸崖路を通るカシミール道、カラギン・アライ道、フェルガーナ道)の地図が秀逸で、大変参考になるものです。そのほかにパミール、天山、カフカスとカラコルムの登山、ワーハン渓谷ゾクル行、パミール高原調査隊と、いずれも美しいカラー写真付きで報告されていて、見るだけでも楽しいものです。

中でも興味深いのは中央アジア研究の碩学、故・加藤九祚氏の旅の記録「パミールの旅2005」です。この地域に興味のある会員の方々には欠かせない基礎資料です。20周年号と同様ぜひ図書室でご一読ください。なお、山岳に関する研究会などの既刊誌があればお知らせください。

(祥)

会務報告

平成30年度第5回(9月度)理事会 議事録

日時 平成30年9月12日(水)19時20分～21時10分

場所 集会室

【出席者】小林会長、重廣・野澤各

副会長、神長・永田・古川・

谷内各常務理事、安井・清

登・齋藤・星・近藤・波多

野各理事、平井・石川各監

事(所用のため近藤理事は

協議事項3まで欠席)

【欠席者】中山副会長

【オブザーバー】節田会報編集人

【審議事項】

1・平成30年度支部特別事業補助金の追加審査結果について

平成30年度特別事業補助金について審査対象から漏れていた1件の追加助成について審議した。(賛成12名、反対なしで承認)

2・監査法人との財務に関しての

指導・助言業務契約の継続について

当年度の太陽有限監査法人との財務に関しての指導・助言業務契約の継続について審議した。(賛成12名、反対なしで承認)

【協議事項】

1・支部合同会議の議題について協議した。(永田)

2・評議員懇談会の議題について協議した。(永田)

3・入会申込書の記載項目の修正案について協議した。(重廣)

4・搜索組織編成について協議した。(重廣)

【報告事項】

1・入会希望者12名、準会員入会希望者13名について入会承認を行なったとの報告があった。(小林)

2・寄付金48件(46名の受領について報告があった。(古川)

3・会員の遭難に関する報告があった。(安井)

4・上高地山岳研究所宿泊者カードの改正案について報告があった。(安井)

5・上高地山岳研究所工事の進捗状況について報告があった。(安井)

6・記念事業委員会について報告があった。(重廣)

7・支部合同会議に向けてのアンケート回答状況について報告があった。(重廣)

8・「登山ヒヤリハット集」作成について報告があった。(永田)

9・マンション管理組合からの騒音苦情に対する当会の回答案について報告があった。(永田)

10・事務局およびロビーの複合機の更新について報告があった。(永田)

11・カシオのプロトレック(WSDIF20)の幹旋販売開始について報告があった。(永田)

12・包括保険制度の導入について報告があった。(永田)

13・公益法人運営委員会「本会への高額寄付者に対する国の栄典授与について」の会報「山」への掲載について報告があった。(谷内)

14・「山」9月号の発行について報告があった。(神長・節田)

【連絡事項】

1・名誉会員の推薦について(谷内)

2・今後の日程について(谷内)

【今後の予定】

1・常務理事会・理事会

・平成30年度10月度常務理事会
10月2日(火)18時30分 集会室

・平成30年度10月度理事会
10月10日(水)19時00分 集会室

2・各種会議等

・平成30年度支部合同会議
9月29日(土)30日(日)プラザエフ

29日13時00分～17時00分および懇親会、30日9時00分～13時00分

・平成30年度第2回評議員懇談会
10月1日(月)19時00分～21時00分

104号室 懇親会21時00分 素材屋

ルーム日誌 9月

1日 総務委員会(新入会員オリエンテーション)

3日 総務委員会 記念事業委員

4日	会 常務理事会 学生部 二火 会 スケッチクラブ
5日	図書委員会 山行委員会
6日	YOUTH CLUB ス キークラブ
10日	自然保護委員会 資料映像 委員会 山の事業委員 会 スキークラブ
11日	山岳研究所運営委員会 フ ォトクラブ スケッチクラブ
12日	理事会 休山会 山想倶楽 部
13日	支部事業委員会 山岳地理 クラブ 九五会
14日	YOUTH CLUB
15日	山の自然学研究会
18日	総務委員会 スキークラブ 平日クラブ
19日	会報編集委員会 YOUT H CLUB 三水会 つ くも会
20日	図書委員会 科学委員会 みちのり山の会 マウン テンカルチャークラブ フォトクラブ
21日	自然保護委員会 デジタル メディア委員会 遭難対 策委員会
26日	家族登山普及委員会 麗山

会

27日 学生部 公益法人運営委員

会 山遊会

28日 資料映像委員会 科学委員

会 YOUTH CLUB

9月来室者 437名

◆会員異動

物故

山崎英雄(4038)18・8・1

中嶋 啓(5115)18・9・11

川北昌博(6858)18・9・2

高野啓介(8979)18・8・16

I N F
O R M

インフォメーション

A T I
O N

◆第36回図書交換会

図書委員会

恒例となっている図書交換会を
年次晩餐会で開催します、

日時 12月1日(土)13時開場、14

時30分から抽選を開始します。陳

列されている本をご覧の上、抽選

開始時間までに購入申込みを願

いします。年次晩餐会に出席され

岡田貞夫(10290)18・9・3

大森喜夫(11686)18・3

陳 孔為(16399)18・9・22

退会

小田島政行(5852) 岩手

勝見幸雄(7024) 静岡

工藤裕幸(12806)

横尾健二(14673)熊本

東 政孝(15930)

早戸健太郎(16110)東海

関口素子(16145)埼玉

金山春男(A0015)熊本

ない会員も参加できます。また、例

年どおり事前申込みも受付けます

(事前申込みについては15ページ
に掲載)。

会場 京王プラザホテル 年次晩

餐会会場

問合せ 近藤雅幸

TEL 080-6629-4630

✉ yabuyama_hgl486.99@

jcom.home.ne.jp

◆晩餐会記念懇親山行のご案内

山行委員会

道志山塊の「石割山」へのハイキ

ングを行ないます。石割山は標高

1413mで、富士山を見渡せる

展望の良い山です。山中湖・平野

からの登山道を往復します。往復

ともチャーターバスを利用。

日時 12月2日(日)

定員 100人(定員になり次第

締切り)

参加費 6000円(バス代、記念

品、記念写真代等含む)

集合 JR新宿駅西口 工学院大

学ビル前 午前8時(時間厳

守)

解散 JR新宿駅西口 午後5時

(予定)

歩程 昼食休憩を含めて4時間

(コースタイム3時間)。標高

差440m。雨天決行。

申込み 参加希望の方は、11月9

日(金)までに、必ず参加者の個

人名で(会員番号明記の上)

専用払込用紙(晩餐会のご案内

内に同封)にてお振り込みく

ださい。(振込先 ゆうちょ

銀行、口座番号00190-

7-767267、名義…シヤ)ニホンサンガクカイサン
コウインカイ

振り込まれた方には後日、詳細案内をお送りします。参加は事前振り込みが条件です。また、貸切バス予約のためにお振り込み後の返金はいたしかねます。

問合せ 征矢三樹

TEL 080-3558-3250

✉ sanko@jac.or.jp

◆妙高スキー懇親会のお知らせ

山行委員会

平成31年1月のスキー懇親会は妙高スキー場で実施します。

日程 1月21日(月)～24日(木)

費用 3万2000円(通信費、保険料、懇親会費用などを含む)

宿泊 新赤倉温泉 ユアーズイン

定員 20名(希望者には、現地指導員によるツアー講習あり)

現地集合・現地解散

申込み 12月20日までに会員番号、住所、氏名、電話などを明記し、郵送、Fax、メールで

高橋 聡まで。TEL 102-000

72 東京都千代田区飯田橋

2-12-10 FAX 03-3222-

0908、✉ sanko@jac.or.jp

参加申込み者には詳細案内をお送りします。

◆講演会のお知らせ 医療委員会

登山の運動生理学とトレーニング学が専門の山本正嘉氏に、安全登山に役立つトレーニングについて講演をしていただきます。体力を付けた方、体力を維持したい方は、ぜひこの機会に知識を身に付けてください。会員以外の方も参加できます。日本山岳文化学会医療分科会共催。

日時 11月26日(月)19～21時

講師 山本正嘉氏(鹿屋体育大学)

演題 登山中に身体トラブルを

起こさないためのトレーニング法

～20歳から80歳代まで活用できる知識～

場所 オリピック記念青少年センター・センター棟(小田急線参宮橋駅下車、徒歩6分)

募集 120名

締切り 11月20日(定員に達し次第締め切り)

資料代 500円

申込み/問合せ

✉ yamairyuu@yahoo.co.jp

ハガキ TEL 188-0011

西東京市田無町4-11-11

野口いづみ

<http://www.jac.or.jp/info/>

inkai/iryuu/list.html

◆日本山岳文化学会第16回研究発表会

日本山岳文化学会の研究発表会を開催しますので参加ください。一般の方は無料です。

日時 11月17日(土)～18日(日)

場所 慈恵医大・高木会館2号館

南講堂(東京・地下鉄御成門駅徒歩3分)

プログラム

17日9時～18時 13

時に講演「山岳救助犬の導入に向かつて」(作家・樋口明

雄氏)。一般演題は「穂高岳・岳沢の森」(小嶋尚)、「現代

社会における冒険の意義と課題」(田淵義英)など21題。

18日9時～12時 「遭難と情報」(青山千彰、久保田賢次ほか)をテーマにシンポジウム。

懇親会 17日終了後に開催(4000円)。

問合せ 中岡久(事務局)

✉ hisa-n@fine.ocn.ne.jp

ハガキ TEL 343-0807

越谷市赤山町2-38-9

HP=<http://www.jamc.gr.jp>

◆編集後記◆

●中秋の名月を富士山吉田口・馬返しで眺め、翌日、足和田山・紅葉台のコースをハイキングしてきました。紅葉台手前の三湖台は西湖、精進湖、本栖湖を見渡せることから名付けられた展望台ですが、最も印象的だったのは、御坂山塊に向かつて緑の波濤のように押し寄せる、眼下の青木ヶ原でした。

●貞観6(864)年に起こった貞観大噴火で流出した膨大な溶岩流が、1200年の時を経て見事な樹海となったものです。松本清張の『波の塔』などで有名になり、「自殺の名所」や「磁石が狂う」「迷ったら抜け出せない」などと話題になりましたが、自然の力が負のイメージを覆い隠し、近年は樹海ツアーなどが人気を呼んでいるとのことです。

(節田重節)

日本山岳会会報 山 881号

2018年(平成30年)10月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 小林政志
編集人 節田重節
Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社